

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	706T	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.520	△RG	0.053	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：706T

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

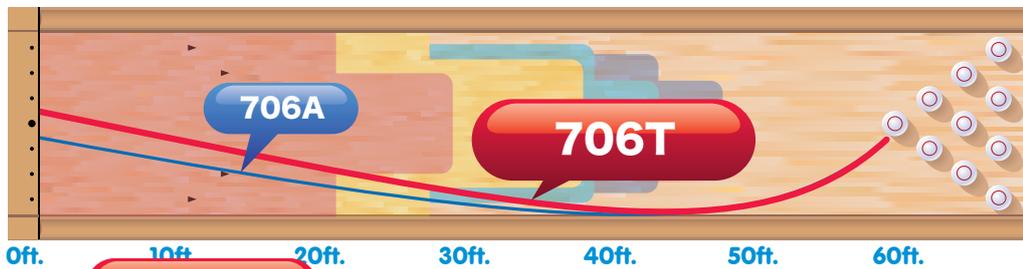
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：706A

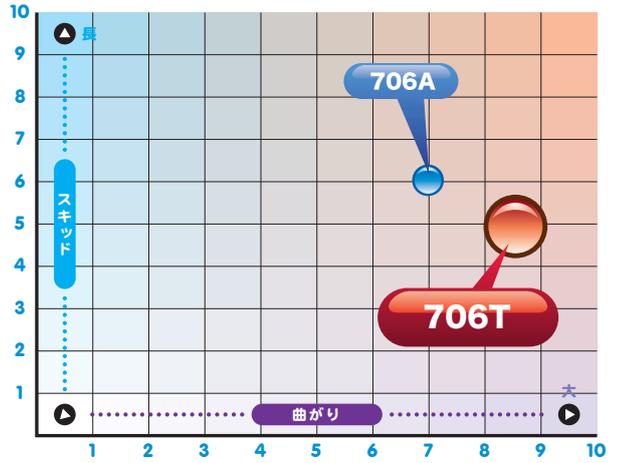
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 5 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

オイルに対しての強さやリアクション性能を英数字でカテゴリー別に分類することで、分かりやすくパフォーマンスを表したTRACK社ナンバースリーズ。現在では”7”の領域でも一昔前の”9”の領域をもカバーできる性能を感じ取れるほどTRACK社のカバーストックは進化したと言っても良いでしょう。特に716T発売時以降、一気にパフォーマンスを向上させたトラクション系カバーから、この先目は離せません。その716Tでも使用したGEN XT(Xtra Traction)カバーと先でシャープなリアクション706AのHelmet Coreとの進化系が今回の706Tと言えます。

同じカバーが採用されている716Tと比べると、オイルキャッチは同じような強さを感じるのに、レーンとの摩擦が非常にしなやかなというか、手前で一気に噛み過ぎず、均等な持続的なキャッチを感じる事が前作と同じGEN XTカバーでも新たに改良された部分でしょう。その持続性の高いカバーであるが故”7”シリーズの代表的なModified RobotコアをHelmet Coreに変更したのも、Robotコアよりも「先で捻じれる」Helmet Coreコアのほうがピンヒットまでの動きのメリハリ感が良かったのでしょうか。

先で動くイメージのコアを採用して”T”というトラクションを表現できるボールに仕上がっているということは、余程カバーストックに自信がある表れであると思います。

私はトラック社の中でも特にトラクション系のボールが気に入っているのは、近年トラック社のトラクションカバーの性能は目覚ましい進歩が見受けられ、ただオイルに強いだけでなく、しっかりとピンヒットまで動いてくれる”他のメーカーでは見ない領域”だと感じているからです。メーカーでさまざまな領域が設定されていますが、ミディアムヘビーのコンディション用でトラック社のトラクション系のボールをまだお試していない方は、是非この706Tを候補としてお考えください。

特記事項

進化させたGEN XTカバーストックと先でシャープなリアクションが売りのHelmetコアとの組み合わせ。終始キャッチしながら先での強い動きが最高の”T”スペックです。